

分かる快感!

# Z会ナビ

算数

理科

▶歴史

地理

お題

## 武士が力をつけていったとき、天皇との関係はどうなっていったのか?

(大学入試センター試験 2012年 白本史A)

「Z会ナビ」が  
Webサイト  
でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

武家政権の成立期には、院と武士は協力したり、対立したりをくり返しました。保元・平治の乱で政治的地位を高めた平清盛は、最初は後白河上皇(のちに法皇)と協力しましたが、しだいに意見が対立するようになり、1179年には清盛が法皇を宮殿に閉じ込めてしまいます。

しかし、好き勝手にふるまう平氏への不満が高まり、平氏に反発する人々を率いた源頼朝が兵を挙げました。頼朝は、法皇と結んで平氏を破り、鎌倉幕府を開きました。

清盛がとった行動として正しいものを、次の①～④のうちから1つ選びなさい。

- ① 平泉の藤原泰衡を攻め滅ぼした。
- ② 院に協力した人々から没収した土地に新たに地頭を任命した。
- ③ 自分の拠点である福原を都にしようとした。
- ④ 寺・仏像を多く造り、法勝寺を建てた。

2012年の大河ドラマ「平清盛」を見ていた人なら、問題に解答するのは簡単でしょう。「院」とは、平氏や源氏が活躍した時代に、天皇家で絶大な権力を持っていた上皇・法皇などのことです。今回は、武士が台頭していく中での、武士と天皇家の関係に注目してみましょう。

### 天皇家に協力することで台頭した

武士は、治安維持や地方の異民族の討伐など、天皇家や貴族に協力する形で徐々に政治的地位を高めていきました。朝廷にも軍や警察の



イラスト・瑞木匠

## 微妙な関係?


機能はあったのですが、貴族たちが務めるには限界があり、武力という実力を持った武士たちが治安維持や軍の役割を務める者として用いられるようになったのです。そのような中、政治の世界における武士の重要性が明らかになったのが、保元・平治の2つの内乱です。天皇家・貴族の争いであったこの戦いで勝敗を決定付けたのが、そこに参加した武士の働きでした。そしてこの2つの戦いで勝利を収めた平清盛が、貴族社会において台頭していくのです。

### 武士の世になったように見えますが……

平安時代以降、鎌倉・室町・江戸と、武士の世が続いたように思われますが、幕府を開く際に武士が名乗った「征夷大將軍」という職は、天皇家から与えられるものでした。そのため、江戸時代には、徳川將軍家以外の武士が天皇家に取り入って役職などを与えられることがないよう、天皇家は厳しく監視もされていました。幕府の將軍たちは、天皇家から認められて初めて「正統な権力者」と名乗ることができるという、天皇家との微妙なバランスの中で、政治を行っていたのです。

ちなみに、今回の問題の選択肢にある、①は源頼朝、②は源頼朝の後に鎌倉幕府の実権をにぎった北条義時、④は後白河上皇の曾祖父の白河天皇(のちに上皇・法皇)です。どの人物・ことがらも日本の歴史上とっても重要なものです。中学校以降で勉強するのを楽しみにしていってくださいね。【Z会・河原井彩】

! 今回の教訓  
大河ドラマを観ていると、歴史について詳しくなります。今年大河ドラマも楽しみですね。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。